

鳥取森林管理署

担当者
森林技術指導官: 國永一彦
地域林政調整官: 平井成典
TEL: 050-3160-6125

- 鳥取県の森林は、県土の74%に当たる259千haを占めており、このうち国有林は30千haあります。我が県では、慶長杉に代表されるように古くから杉が造林され、智頭林業、若桜林業は全国的にも有名で、良質な杉材の木材生産を行っているほか、県土の保全、水源のかん養、地球温暖化防止等の多様な公益的機能を有しています。
- 県内の民有林は、戦後の拡大造林期に植栽された人工林資源が利用可能な段階を迎えつつあるものの、路網整備の遅れや所有形態が小規模・分散化していることから生産性が低く、また、長期にわたる林業産出額や林業所得の減少、森林所有者の経営意欲の低迷、国産材の生産・流通構造の改革の遅れ等から、間伐等の十分な手入れが行き届かない森林が顕在化しています。このため、林業・木材産業が成長産業として飛躍することを目指すとともに、これらの産業の再生を通じて森林の適切な整備・保全を促進するための取組が進められています。
- 一方、国有林は奥地脊梁地帯に多く分布しており、国土保全、水源かん養等の公益的機能の発揮に寄与するとともに、大山国有林、氷ノ山国有林及び扇ノ山国有林などの国立公園・国定公園などに指定された国有林では、自然景観に恵まれ、レクリエーションの場としても親しまれています。
- 鳥取県との地域林政連絡会議では、平成25年度の地域課題の解決に向けた取組の総括を行い、平成26年度の民国連携の取組に向けて、鳥獣被害対策、森林病害虫対策、山地災害時における連携について意見交換を行いました。
- 国有林が所在する市町の地域課題や共通課題について、各種会議等の場を利用して幅広い情報収集を行い、若桜町において、二ホンジカの個体数管理について連携した取組を展開しました。



(鳥取県との地域林政連絡会議の様子)

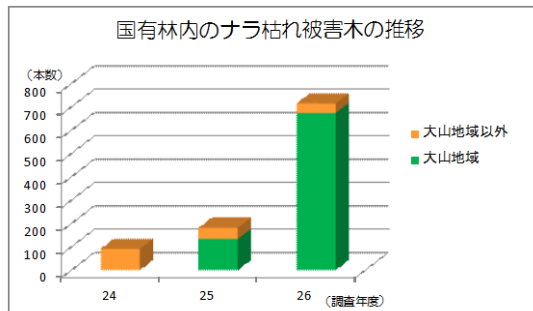
森林病虫害対策の推進

【課題】 ナラ枯れ被害対策（継続）
【取組状況】

- 鳥取県ナラ枯れ被害対策協議会、大山広域ナラ枯れ被害対策協議会に参画し、関係機関との情報共有による連携した被害対策に向けた検討を実施。
 - 鳥取県が実施する樹幹注入試験において、大山国有林のフィールドを提供。
 - 国有林で発生したナラ枯れ被害木について、伐倒くん蒸処理を計画。
- 【成果と今後の課題】
- ナラ枯れ被害木の伐倒くん蒸処理に係る一般競争入札は不落となったため、今後、春駆除の処理に向けて調整予定。
 - 樹幹注入の実演試験を通じて、関係機関の知識・技術の向上に寄与。



(大流国有林上空から撮影されたナラ枯れ被害)



治山対策の推進

【課題1】 山地災害発生時の連携（新規）
【取組状況】

- 国有林野等所在市町村長有志協議会等の各種会議において、広島市豪雨災害に係る国有林の取組を説明。また、大規模な山地災害の発生に伴う技術的支援に係る職員の派遣等について情報発信を実施。
 - 鳥取県との治山砂防連絡調整会議により、国有林、民有林間の事業の調整及び情報の共有を実施。
- 【成果と今後の課題】
- 「近畿中国森林管理局山地災害対策チーム」による支援制度について、情報の共有が図れ、今後、連絡体制の確保・調整を検討予定。
 - 国有林、民有林が近接している地域において、一体的な全体計画を作成し、国有林と民有林が連携して、効率的・効果的な荒廃地の復旧整備を実施。

【課題2】 地域の安全・安心への取組（新規）

【取組状況】

- 鳥取県が主催する「裏山出張診断」へ参画し、共同で施設の点検等を実施。
 - 平成26年度に予定する治山事業について、地元説明会を実施し、地域住民からの意見・要望等を把握。
- 【成果】
- 旧城山国有林に隣接する地域の住民とともに出張診断を実施し、災害リスクの危険性を周知。
 - 地元説明会により地元住民からの連携・協力体制の構築に寄与。



(民有林の治山施設点検の様子)

鳥獣被害対策の推進

【課題1】若桜地域における二ホンジカの個体数管理（継続）

【取組状況】

- ・若桜町鳥獣害対策協議会へ参画し、被害状況等の情報共有及び対策の検討を実施。
- ・若桜町内の国有林や民有地（休耕田）へ捕獲装置（囲い罠）を設置し、委託契約により二ホンジカの捕獲を実施。
- ・林野庁が主催する「平成26年度国有林野事業業務研究発表会」において、「民国連携による地域一体となった鳥獣被害対策活動」について若桜町と共同で発表。

【成果と今後の課題】

- ・囲い罠により二ホンジカを捕獲し、個体数管理に寄与。今後、更なる捕獲頭数の増加に向けた検討を予定。
- ・国有林野事業業務研究発表会では、二ホンジカ対策を契機として、市民団体と連携した資源の活用による地域振興に寄与している点が評価され、森林ふれあい部門において林野庁長官賞を受賞。



（鳥獣害対策協議会の様子）



（国有林野事業業務研究発表会の様子）



（囲い罠設置の様子）



（捕獲したシカ）

【課題2】県内全域の二ホンジカ被害対策の検討（継続）

【取組状況】

- ・各府県、各市町村が設置している鳥獣被害対策協議会への国有林の参画に向けた検討を実施。
- ・中国四国農政局が主催する「中国地域鳥獣被害対策現地検討会」に参加し、関係機関等との意見交換を実施。
- ・二ホンジカの被害・生息状況を把握するため、国有林野内において簡易生息・被害調査を行い、関係機関等へ情報共有を実施。

【成果と今後の課題】

- ・今後、日野郡鳥獣被害対策協議会へオブザーバーとして参画し、連携した取組に向けた検討を予定。
- ・中国地域鳥獣被害対策現地検討会において、各地域における個体数管理の手法や広域連携の必要性等について理解を深めることができ、今後、効果的な防除対策に向け、市町村や関係団体等との連携も視野に検討が必要。
- ・国有林内におけるシカの目撃情報を収集し、今後、関係行政機関等との情報共有により効率的・効果的な有害鳥獣駆除対策を検討。

林産物の安定供給

【課題】木材の安定供給と県内産木材の利用促進（継続）

【取組状況】

- ・鳥取県緑の産業再生プロジェクト協議会に参画し、原木の安定供給、雇用支援、木質バイオマス発電事業等について、関係機関における情報共有及び意見交換等を実施。
- ・沖ノ山国有林等において、年間（予定）約10,000m³の素材生産事業を計画。
- ・治山・土木事業の木材利用において、県産材の活用を積極的に実施。

【成果と今後の課題】

- ・森林整備事業等の計画的な事業発注を通じて林業事業者等の育成に寄与。
- ・素材生産事業の実施により、原木市場へ約2,500m³、安定供給システムへ約1,500m³の素材を供給。引き続き、計画的な原木の安定供給に向けた素材生産事業を予定。
- ・国有林における治山・土木工事において、平成26年度に51m³の県産材を使用。今後も木材が使用可能な工種においては、積極的な木材利用の推進を計画。



（治山工事への県産材利用の様子）